

産業界・官界・政界トップリーダーによる

連続リレー講座 2017

世界に挑め!!



科目名 社会基礎学 [グローバル人材に不可欠な教養]

CONCEPT

基本コンセプト

グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は? 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、

産業界・官界・政界のトップランナーがオムニバス形式で講義します。

今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身に付けてほしいのか?

土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

開講時期

平成29年度

第2クォーター 土曜日 10:40~16:40

(初日と最終日は13:20~16:40)

全6回

場 所

鶴甲第1キャンパス
K棟 K202号室

科目区分

総合教養科目 (学部1、2、3年生)
総合科目 I (学部4年生以上)

社会基礎学 平成29年度 ※2単位取得 (科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。)

第1回

6/17
(土)

13:20-16:40

【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

JAPIC 常務理事

三浦 潔司

コーディネーター

▶プロフィール：新日鐵（現新日鐵住金（株））に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。直近5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。1男（大学院生）1女（大学生）の父。趣味は、ゴルフ、読書、散歩。

野村アセットマネジメント(株) 執行役専務

中川 順子

パネリスト

▶プロフィール：1988年野村證券(株)入社。奈良支店、人事部、投資銀行部門、財務部門を経験し、2004年退社。2008年再入社、子会社の野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー社長。2010年野村ホールディングス(株)財務部門へ異動。2011年執行役CFOの後、2013年執行役員および2015年野村證券(株)執行役員(兼任)。2017年4月より野村アセットマネジメント(株)執行役専務。現在に至る。★本学出身者

パネルディスカッション

第1部 グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

第2部 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

日本の魅力と真価を学ぶ集い 'POSITIVE JAPAN®' 主宰

三和 正明

パネリスト

▶プロフィール：1967年(株)住友銀行(現三井住友銀行) 入行、支店長・本店各部長等歴任後、1994年(株)日本総合研究所で代表取締役専務としてシステムとコンサルティング両部門を担当。2004年三精輸送機(現三精テクノロジーズ)(株)で社長・会長を歴任後2015年退任。現在はPOSITIVE JAPAN®を主宰し、HP並びにメルマガで「日本の魅力と真価」を定期配信中。★本学出身者

神戸大学 理事 副学長

小川 真人

パネリスト

▶プロフィール：仙台市出身。東京での学生生活後、1985年神戸大学工学部助手。1992年IBM T.J.Watson研究所客員研究員、2004年神戸大学工学部教授。2011年同大学院工学研究科長、工学部長。2015年同大理事・副学長。趣味：将棋囲碁碁盤・山歩き・ワイン。

第2回

6/24
(土)

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているのかについて具体的にみた上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券(株)

コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター

吉村 隆

▶プロフィール：1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員。趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：天網恢恢疎にして漏らさず

13:20-14:50

日本の未来を切り拓く 少子化・IT化・グローバル化と我が国の将来ビジョン

少子高齢化による人口減少、ビッグデータをはじめとするIT分野の進展、待たなしで進むグローバル化など、我が国は大きな課題を抱えているが、これらは新たな挑戦のチャンスでもある。我が国の将来を見据え、成長戦略を着実に実行・進化させていくことが不可欠。特に、2020年を節目に、働き方改革、IT政策などに重点を置きつつ、大胆な改革を速やかに実行することが重要。こうした我が国の将来ビジョンを示す。

衆議院議員 衆議院予算委員会理事 自民党総裁特別補佐 筆頭副幹事長 選対副委員長 人工知能未来社会経済戦略本部幹事長 中小企業・金融各調査会幹事長 IT戦略特命委員会委員長代理

西村 康稔

▶プロフィール：1962年兵庫県明石市生まれ。神戸大学附属明石中、灘高、東大法卒業。通商産業省入省後、米国メリーランド大学院で国際政治・経済を学び卒業。通商産業省調査官を最後に退官。2003年、初当選。2009年自民党総裁選に立候補。2014年、5期目当選。2008年8月から2009年9月まで外務大臣政務官 2012年12月から2015年10月まで内閣府副大臣として経済再生・経済財政政策・社会保障と税一体改革・健康医療戦略・TPP・PFI・NPO等を担当。2016年1月から9月まで衆議院内閣委員長 趣味：秘境巡り、映画、俳句、茶道。学生時代：陸上、野球、ボクシングなどで活躍。

15:10-16:40

人口減少社会で発展するための国土づくり

人口減少社会において我が国が発展していくために、何をすれば良いのかは国家的な重要課題である。また、ゲリラ豪雨の多発等による災害の激甚化や、過去に整備された道路等社会インフラの老朽化など、国土保全に係る諸問題も指摘されている。このような状況に対して国土交通省としてインフラ整備にいかに取り組みかかるとともに、次世代に向けた国土づくりのあり方について考える。

国土交通省

近畿地方整備局長

池田 豊人

▶プロフィール：1986年建設省(現国土交通省)に入省。2000年静岡国道事務所長、11年関東地方整備局道路部長、13年道路局道路交通管理課長、14年同環境安全課長、15年大臣官房技術審議官などを経て、16年6月より現職。香川県出身。

第3回

7/1
(土)

10:40-12:10

海外で仕事をするとき最低限身につけておくべき資質・素養とは

海外で働くことを希望する若者が減っているという。しかし、急速にグローバル化する世界では、日本を含む世界のどこにいても様々な宗教、文化的背景を持った人たちがうまく付き合っていくことが今まで以上に求められている。ここでは自身の経験、失敗談も織り交ぜながら、グローバル化する社会で生きていくためには何を身に付けなければならないかを皆さんと一緒に考えていきたい。

JAPIC

事業企画部 次長

上村 俊一

▶プロフィール：1992年大林組入社。経理、財務、シンガポール営業所、社内監査等の各部門を経て、2015年よりJAPICに出向、現職。兵庫県出身。趣味は国内、海外の見聞を広めること、ピアノ。最近では、コンピュータのプログラミングを勉強中。

13:20-14:50

地方創生に就いて

政府が取組む地方創生プロジェクトも成功事例が増えました。地方創生においては、従来の大企業の工場建設、工場移転による雇用確保、公共工事等に頼らず、従来型の地域経済活性化でない形が確立しつつある。政府のチャレンジは、このような成功事例をさらに多様化させること、また特定地域での成功事例をより広域に展開することで日本経済の底上げを実現することです。成功事例を通じて地方創生の次の展開を展望します。

M&Company(株)

代表取締役社長

前川 直和

▶プロフィール：1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後外資系コンサルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。現在は、2015年10月にベンチャー企業支援事業、政府政策課題執行支援事業等を行うM&Company株式会社を設立し、現在に至る。大阪府出身。★本学出身者

15:10-16:40

東日本大震災の教訓と被災地から見てきた災害復興の在り方

大災害が発生した際の避難行動時における心理状況など、東日本大震災から得た教訓を改めて見つめなおし、今後起こりうる災害と避難行動の在り方を考える。また、震災から6年が経過し、復興まちづくりを進めてきた中でみえてきた課題について検証し、人口減少と高齢化社会が他の地域に比べて一層早い速度で進む被災地において、将来にわたり持続可能なまちづくりとはどうあるべきかを考える。

釜石市長

野田 武則

▶プロフィール：2003年に岩手県議会議員に初当選。07年に釜石市長に就任し現在3期目。東日本大震災以降、市の復旧復興にあたることと、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会の会長として被災した岩手県沿岸地域全体の復興と、持続可能な地域づくりに向けて活動中。11年～12年中央防災会議専門調査会委員、13年～14年被災者に対する国の支援の在り方に関する検討会委員。趣味は読書。

第4回

7/8
(土)

10:40-12:10

アジア経済の成長と日本鉄鋼業

世界経済のグローバル化と、ブロック化・保護主義的傾向とが相克するなかで、日本経済を担う企業の戦略は？鉄鋼業をモデルとして最近の動きを概観しながら、ダイナミックなアジアの経済成長を取り込んで発展を続けるために取るべき針路と、それを支える人材の在り方について、共に考える。

新日鐵住金(株)
常務執行役員 大阪支社長
松野 正人

▶プロフィール：1981年、住友金属工業(株)(現新日鐵住金(株))入社。同社総務部長、人事労政部長を歴任し、2012年10月の新日鐵住金(株)設立とともに総務部長就任。新会社におけるガバナンス上のフレームワーク構築・整備、海外事業の支援体制確立等に注力。昨年4月より現職。大阪府出身。

13:20-14:50

ASEAN大市場統合と日本

タイやシンガポールなど東南アジア10か国が参加する東南アジア諸国連合(ASEAN)は8月、創設50周年を迎える。約6億人の巨大市場は、関西など地域経済にとっても重要な存在。トランプ大統領の就任で世界秩序が変化する中、東アジア市場統合の将来を展望し、各国が抱える経済的なリスクも分析する。Kポップは大人気なのにAKB48は知名度が低い状況から、ASEANでの日韓の「ソフトパワー競争」の優劣も解説する。

株読真新聞東京本社
クロスメディア部長
深沢 淳一

▶プロフィール：1987年読売新聞入社。主に経済部で経産省、財務省、外務省、経企庁、国交省、総務省などの主要経済官庁や民間企業を取材。経済部、国際部のデスクも担当。シンガポール特派員(アジア経済担当)、パナコ特派員、アジア総局長と計約6年半にわたりASEANに駐在し、ASEANを中心とする東アジアの政治・経済・社会の動向を取材してきた。福岡市出身。趣味は旅行。

15:10-16:40

世界政治と経済の混迷度が深まる中で 日本企業の今後の国際戦略は？

TRUMP勝利とBREXITに象徴される世界情勢の激変の波は、スーパーパワーであり続けた米国の国内志向と共に、世界全体に困難な課題を突き付けることになった。今後少子高齢化の大きな波が押し寄せる日本に成長戦略は描けるのか、先の読めない世界で勝ち抜く事は出来るのか、課題は何か、共に考えてみよう。

双日(株) 顧問
神戸大学特別顧問
田邊 弘幸

▶プロフィール：1968年日商岩井株式会社。日商岩井・双日を通して、エネルギー金属資源部門長・専務執行役員、代表取締役社長・米州総支配人などを歴任。2011年双日(株)顧問に就任。1998年ハーバード・ビジネススクールAMP修了。三重県伊勢市出身。趣味：音楽鑑賞。室内楽を好む。最近男声合唱団に入団、呻吟を重ねながらもその魅力に取りつかつたつある。日本モーターアート協会副理事長。★本学出身者

第5回

7/15
(土)

10:40-12:10

企業活動のグローバル化と 金融の役割

企業の成長にとって今やグローバル化は不可欠です。企業が国境を越えるうえで大きな課題の一つが金融です。金融は経済活動を支える基盤ですが、新興国では十分ではない金融インフラが成長を阻害したり、先進国でも金融に関する規制の違いなどから企業活動が制約されることがあります。本講義では、企業活動のグローバル化とそれを支える金融の役割について基礎知識がない方にもわかりやすく解説、討議していきます。

西日本高速道路(株)
監査役
川住 昌光

▶プロフィール：1985年旧日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。DBJシンガポールCEO、企業金融第5部担当部長(海外エネルギー担当)、中国支店長、地域企画部長、産業調査部長を経て、2016年より現職。東京都出身。趣味：スポーツジム通い、登山、映画・音楽鑑賞、ドライブ。座右の銘は、「知行合一」。

13:20-14:50

日本の安全保障環境と防衛政策

国際テロ組織の活動の活発化・拡散、力を背景とした現状変更の試み等、安全保障上の課題や不安定要因は、複雑かつ多様で広範にわたっており、一国のみでの対応はますます困難なものになっている。そのような中、我が国は、新しい安全保障・防衛政策によってどう対応しようとしているのか。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながら分かり易く解説したい。

防衛省
大臣官房 審議官
鈴木 敦夫

▶プロフィール：1985年防衛庁入庁。米国国防大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長(兼)大臣官房審議官、防衛政策局次長などを経て現職(いずれも当時の名称)。

15:10-16:40

メディア融合とコンテンツ戦略

デジタルテクノロジーの進展がもたらしたメディア融合は情報伝達の形を大きく変えました。特に、人々の映像コンテンツとの接し方は大変革の局面を迎えており、伝統的なテレビ局はビジネスモデルの見直しを迫られています。講義ではインターネット配信や放送政策の国内の最新動向を概観し、米国型のメディア戦略のダイナミズムとも比較しながら、社会にとって望ましいメディアのあり方について考察するきっかけにしてほしいと思います。

京都産業大学
現代社会学部 教授
脇浜 紀子

▶プロフィール：1990年読売テレビ入社。アナウンサーとして「ズームイン!!朝!」「ミヤネ屋」などを担当。2000年南カリフォルニア大学修士。2010年大阪大学大学院国際公共政策博士。2016年12月に読売テレビを早期退職し、2017年4月より京都産業大学現代社会学部教授に。趣味はスキューバダイビング。★本学出身者

第6回

7/22
(土)

13:20-14:50

総 括

JAPIC 専務理事・事務局長
丸川 裕之

▶プロフィール：1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現新日鐵住金(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

15:10-16:40

試 験

連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認してほしい。

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 教授
小高 裕之

▶プロフィール：1982年武田薬品工業(株)入社。生活習慣病治療薬の研究開発に従事。2006年より創業研究所長、医薬研究本部長・執行役員を務め、研究活動のグローバル化を推進。米、英およびシンガポールに枝研究所を設立。この間、日本バイオイノベーション協会や経済同友会等に参加。2014年から現職。埼玉県出身。学生時代はラグビー部。

社会基礎学 推薦文 (平成28年度受講生より)

国際文化学部(1回生)

正直、土曜日の2.3.4限に講義を受けにくるのは面倒だ。しかし、もう二度とお話を聞くことができない可能性の大いにある方々のお話を聞くことは、貴重な経験であるだけでなく、非常に有意義なことだと思う。分野も多岐に渡るため、様々な新しい知識と教養を身に付けることができる。その点、土曜でも講義を受ける価値はあるのではないかと思う。また、「グローバル人材に不可欠な教養」というサブタイトルがついていたため、国際文化学部の学生が多いのではないかと勝手に思っていたが、むしろ少ない方だったのが意外だった。様々な学部の人が、様々な意見をもっていて、私が知らなかった知識をもとに質問する人を見ることがいい刺激を受けた。

発達科学部(1回生)

この講義では普段では決して出会えないような方にたくさん出会い、貴重なお話を聞くことができました。私は文系なので、通常の授業では文系のことしか学ばないのですが、ここでは理系の話も聞けてとても刺激を受けました。自分の学部は学際性が広いことが特色なので、私はこの講義を受けて更に自分の幅が広がったように感じました。これから国内、国外かかわらず働く上で心がけていくべきこともたくさん学べて本当に良かったです。貴重な休日である土曜日を割いてでも受ける価値があると思いました。

法学部(1回生)

この講義を受けると、必ず刺激になります。何かを始めてみようという気になれます。他の講義と決定的に違う点は、講師の先生方にあります。皆さんが現役で、社会の第一線で活躍されています。そのため、各人が専門的な知識を豊富に持っていらっしゃいます。その知識、考え方を聴くことは、ほとんどの学生ができない経験で、前述した通り、とても良い刺激になります。そして、先生方が有しているのは専門知識だけではありません。多岐にわたる分野の先生方から話を聴けるのですが、どうしても全員が根本的に同じ思い、考えを抱いているのです。それは色々と言ひ様があると思うのですが、グローバル人材ということに関して言えば“挑戦すること”だと私は感じました。何も具体的なことを申し上げませんが、私は是非、皆さんに社会基礎学を受講することを勧めます。皆さんなりの感じ方で、実りのある講義にきつとなります。

経済学部(1回生)

現在、日本の様々な分野で活躍されている方々の貴重な講義を聞くことができる、おもしろい授業でした。普段、興味関心が湧かなかつたり、自分では詳しく調べようと思わないような分野も、実は自らの専門分野と関わりがあつたり、新たな興味が湧くきっかけになるかもしれません。また、13回の講義を通して、講師の方々共通して口にするキーワードの中に、今のグローバル社会の中に潜む課題を探ることができました。興味が湧かなくても、教養として身に付けておくべきことが多かったです。学部での勉強が多岐に渡る分野に関連しているなあと感じました。

文学部(1回生)

世界は今大きな転換点にあり、危機を迎えており、混沌とした時代にあります。その中で、どう生きていくのか。その指針を示してくれるのがこの授業であると思います。地球温暖化や資源問題、少子高齢化、安全保障、移民問題、テロ、財政問題、対外関係の問題、情報社会の功罪、AIなど、これらはもはや他人事ではなく、今後間違いなく直接的にも間接的にも私たちに影響することでしょう。どうなるかわからない未来に不安を感じるばかりではなく、そして目を背けるのではなく、この授業で知識や見解を得て、自分なりに考えを深めてみませんか。きっといろいろなことが見えてくるはずです。土曜日にあるからという理由だけで履修をやめないで下さい。来て聴く価値のある講義ばかりです。

理学部(1回生)

今回の講義を通して、ニュース番組でよくクローズアップされた話題について、それに関わってこられた先生方の生の声が聞けました。TPPや被害地復興など、どうしても何の気なしにテレビや新聞から得た通りいっぺんの知識にとどまってしまうがちです。それ以上のことを学べる機会はそのようありません。また、今現在の世界の実態が学べました。力をもつ国、発展途上の国、いつの間にか日本を追いぬかんとしている国などなど。みなさん誰もが主だった国に何かしらのイメージをもっていると思います。しかし、それはもう一昔前のことで今は違うことだってある。過去のイメージから脱却して、今の世界、ひいては近い未来に起こるであろうことをぜひとも学んで下さい。更に、海外から見た日本というものも学べました。私のように海外に出たことがない人は、日本の常識が知らず知らずのうちに当たり前になっています。なので、実際に海外でご活躍される先生方のお話を聞くと、日本の常識というものさしから離れて、客観的に日本というものを見ることが出来ます。

医学部(1回生)

医療系の分野で働くことを目指す者ですが、社会に向けて広い視野を持ちたいと思い、この講義を受講することに決めました。様々な分野の第一線で働く方々を講師としてお招きし、グローバル化についての講義を通じて、様々な角度から世界を見つけていきます。講義自体、各先生の工夫やメッセージの詰まった大変興味深いものですが、講義後の質疑応答やディスカッションも中身の濃いものです。学部、学科は違えど、同世代の人たちの意見や考え方に自分にはないものを感じてハッとさせられることが多かったです。この講義には、ほぼ全ての学部から聴講者が集まっています。また、附属中等学校の生徒さんも受講しています。良い刺激を受けることができると思いますので、興味のある方は受講を考えてみてはどうでしょうか。「グローバル人材」になるための第一歩を踏み出せるはずですよ。

海事科学部(1回生)

海事科学部の学生であるため、2回生になると六甲台を離れて深江キャンパスで専門科目に集中することになります。そのため、六甲台にいる1回生のうちに自分の視野を広げておくべきだと思います。受講にいたりしました。実際の講義では、普段は大きな講演会に行かなければ聞けないような社会のトップリーダーの先生方のお話を聞くことができ、また、内容も政治から安全保障、金融まで様々なものがあり、自分の視野を広げるのに大いに役立ちました。視野を広げたい、トップリーダーの先生方や社会の最前線の話が聞きたいという方には本当におすすめできる講義です。

経営学部(1回生)

この講義は、現在、社会のあらゆるところで活躍なさっている方々が、リレー方式で順番に講義して下さるという特殊な形式がとられています。それぞれの専門の方が、現在のことを話して下さるので、学生という枠の中にいる私にとって、とても刺激のあるものでした。たくさんの方々の視点や価値観を学べるので、受ける価値のある講義だと思います。

農学部(1回生)

初めは講義についていけるかという不安でいっぱいでした。しかし、どの回の講義においても、講師の方がとても分かりやすく説明して下さり、普段あまり馴染みのない分野に関しても興味をもつことができました。また、日本の世の中について、知っておくべきことがたくさんあることに気づき、今では毎日新聞を読むように心がけています。こんなにも幅広い分野にわたり、日常生活では知り得ない裏事情まで面白く学べる機会は、この社会基礎学をとる以外にはありません。聴講だけでも可能なので、皆さんも是非この講義を受けてみてください。

工学部(1回生)

様々な分野の最前線で活躍される方々の生の講義が聞けました。正直な話、これだけの数、かつ各分野のトップの方々の話を聞ける機会はそうないと思います。貴重な機会なので、是非参加すべきだと思います。自分は工学部に所属しています。しかし、一番面白かったのは金融の話でした。銀行や資本の仕組みがよく分かりました。この講座を受けていなければ知らなかったと言ってしまえば気にもしない分野の話でした。この講座をとって良かったなと思ったことのひとつです。神戸大学出身の方々もいらっしゃいました。自分のこんな場で講義できる人材になりたいなと思いました。電車の広告や大学のホームページでよく見る「グローバル人材」がテーマの講座なのですが、まだまだ僕には大きなものに思えます。しかし、講座を受ける前と受けた後とは「グローバル人材」のイメージやら理想像が変わりました。是非この講座はとるべきですよ。



JAPICとは

Japan Project-Industry Council

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project - Industry Council : JAPIC) は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在37業種205社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC会長

宗岡 正二

Shoji Muneoka

新日鐵住金(株)代表取締役会長



開設趣旨

世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています(グローバル化)。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。



学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

主催

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部

サポート

神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先

神戸大学研究推進部連携推進課
産学官連携グループ

連絡先電話番号 078-803-5427

E-mail ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp